

- 問1 百済などの朝鮮半島諸国から、高度な技術や学問を持って日本へ移り住み、飛鳥時代の国づくりに貢献した人々のことを何という？
- 問2 大津宮への遷都などを通じて基礎が築かれた、天皇中心の法に基づく国家を何という？
- 問3 大津宮で政治を行った天智天皇が作成した、日本で最初の全国的な戸籍を何という？
- 問4 中大兄皇子らが中心となり、豪族が支配する政治を改め、天皇中心の国家を目指した政治改革を何という？
- 問5 663年、日本が朝鮮半島での拠点を維持するために兵を送り、唐・新羅連合軍と戦った国を何という？
- 問6 白村江の戦いのあと、九州の防衛や外交の拠点として置かれた役所を何という？
- 問7 蘇我氏を倒したあとの大化の改新で、土地や人民をすべて天皇のものとする政治のしくみを何という？
- 問8 推古天皇のもとで摂政として登用され、聖徳太子とともに政治を行った有力豪族は誰？
- 問9 奈良県の法隆寺などが代表する、現在世界で最も古い建物群のことを何という？
- 問10 天皇に権力を集中させ、全国を統一的に支配する国づくりを目指す体制を何という？
- 問11 天智天皇の死後、大友皇子と大海人皇子の間で跡継ぎをめぐる起こった大規模な内乱を何という？
- 問12 聖徳太子が、役人たちの道徳や政治の心得として定めた法令を何という？
- 問13 壬申の乱に勝利して即位し、天皇中心の国づくりを進めた天皇は誰？
- 問14 推古天皇の時代、中国へ進んだ制度や文化を学ぶために派遣された使節を何という？
- 問15 聖徳太子が中心となって栄えた、最初の本格的な仏教文化を何という？
- 問16 聖徳太子が、家柄にこだわらず才能や功績のある人物を役人に登用するために定めた制度を何という？
- 問17 聖徳太子が役人の心得として、仏教の「仏・法・僧」を敬うことを記した文書を何という？
- 問18 奈良県の法隆寺などが該当する、飛鳥時代に日本で発展した現存する最古のものは何？
- 問19 豪族中心の政治から脱却し、天皇が権力を集中させる国家体制を何という？
- 問20 飛鳥文化を象徴し、聖徳太子によって建立されたとされる奈良県にある寺院は何？
- 問21 聖徳太子によって建立され、世界最古の木造建築物群として飛鳥文化を象徴する寺院を何という？
- 問22 釈迦三尊像などに見られる、左右の形が同じになっている特徴を何という？
- 問23 推古天皇が才能や功績によって役人を登用するために定めた制度を何という？

## 答え合わせ・解説

問1	答え 渡来人	渡来人は、漢字や儒教、仏教などの学問のほか、機織り、金属加工、土木技術、須恵器の製作法など、高度な知識や技術を日本にもたらしました。彼らの技術は、大和政権の国づくりや、寺院の建設、都市計画に不可欠なものとなりました。
問2	答え 律令国家	律令国家とは、国の決まりである「律」と「令」に基づいて、天皇が全国を統治する国家の形です。都に政治の中心を置き、官僚が整備され、国民は公地公民（土地と人民は天皇のもの）という原則のもとで戸籍に登録されました。これにより、日本は法治主義的な性格を強めた国へと生まれ変わりました。
問3	答え 庚午年籍	670年（庚午の年）に作成された「庚午年籍」は、日本で初めて全国規模で作成された戸籍です。これにより、政府は誰がどこに住んでいるかを把握し、兵役や租税を課するための基礎資料としました。この正確な戸籍の作成が、後の班田収授法の実施へとつながる重要な足がかりとなりました。
問4	答え 大化の改新	645年、中大兄皇子や中臣鎌足らは、強大な権力を持っていた蘇我入鹿を倒し、天皇中心の国づくりを目指す「大化の改新」を開始しました。彼らは「公地公民」を掲げ、土地や民を豪族の手から国家の管理下に移しました。また、税制の整備や中央集権的な統治を目指す制度の導入を行いました。
問5	答え 百濟	663年、唐と新羅が協力して百濟を滅ぼそうとした際、日本は百濟を助けるために軍を送りました。しかし、白村江の戦いで唐・新羅連合軍に大敗し、朝鮮半島における政治的な拠点を完全に失うことになりました。
問6	答え 大宰府	大宰府は、九州地方（特に博多周辺）を管轄する行政機関です。軍事防衛だけでなく、外国との外交交渉を行う窓口としての役割も持ちました。周囲には「水城」という土木施設を築き、守りを固めたとされています。
問7	答え 公地公民	「公地公民」とは、それまで豪族たちが私有していた土地や人民を、すべて国家（天皇）の管理下に置く制度です。これにより、豪族の力を抑えて天皇による一元的な支配体制の基盤を作ろうとしました。
問8	答え 蘇我馬子	推古天皇が即位した際、馬子は甥である聖徳太子を摂政として登用し、新しい国づくりを主導しました。仏教の導入を積極的に進め、四天王寺の建立などにも深く関わりました。
問9	答え 木造建築	法隆寺の西院伽藍は、現存する世界最古の木造建築物群として有名です。木材の特性を生かした緻密な接合技術や、金堂・五重塔に見られる建築様式は、当時の高度な土木・建築技術を今に伝えています。
問10	答え 中央集権国家	中央集権国家とは、天皇や朝廷が中心となって、全国の土地や人民を管理し、法律に基づいて統治を行う体制のことです。冠位十二階や公地公民といった制度は、まさにこの体制を実現するための手段でした。
問11	答え 壬申の乱	672年に始まったこの争いは「壬申の乱」と呼ばれ、地方の豪族や兵を味方につけた大海人皇子が勝利しました。勝利した大海人皇子は天武天皇として即位し、これまでの豪族中心の政治から、天皇に権力が集中する政治へと大きく転換しました。
問12	答え 十七条の憲法	604年に制定された十七条の憲法は、仏教や儒教の考え方を基盤に、役人が守るべき心構えを説いたものです。「和をもって貴しとなす」といった協調の精神や、天皇に仕える者としての自覚、公正な政治を行うことなどが記されています。
問13	答え 天武天皇	天武天皇は、即位後に天皇中心の政治体制を整えました。皇親政治を行いながら、律令制度の導入に向けた整備や、歴史書の編纂を命じるなど、国家としての骨格作りを行いました。
問14	答え 遣隋使	607年に小野妹子らが派遣されました。彼らは隋の皇帝に国書を届けて対等な外交関係を求めるとともに、仏教の教義や政治の仕組みを学び帰国しました。これにより日本には大陸の新しい文化が急速に流入しました。
問15	答え 飛鳥文化	飛鳥文化は、法隆寺などの寺院建築や、釈迦三尊像のような仏像に見られる彫刻に特徴があります。これらは朝鮮半島を経由して伝えられた大陸の文化の影響を強く受けており、当時の人々の信仰心や芸術的な感性が結実したものです。
問16	答え 冠位十二階	603年に制定された冠位十二階は、役人に大徳から少信まで12のランクを設け、色分けされた冠を授けることで地位を表す制度です。家柄ではなく実力で地位が決まる仕組みを作ることで、朝廷への忠誠心を高め、有能な人材を活用することを目指しました。
問17	答え 十七条の憲法	604年に制定されました。役人が守るべき心構えを全17条で記しており、その第2条には「三宝（仏・法・僧）を敬うこと」が説かれています。儒教的な考え方や仏教の教えに基づき、和を大切にすることなどを強調しました。
問18	答え 木造建築物	法隆寺の金堂や五重塔などの西院伽藍は、現存する世界最古の木造建築物です。当時の優れた技術を示しており、エンタシス（柱の中央が膨らむ技法）などの特徴が見られます。
問19	答え 中央集権	飛鳥時代から大化の改新を経て目指されたのが「中央集権」です。地方の豪族から土地や民を公のものとする「公地公民」を掲げ、中央政府が全国を一括して管理するシステムを構築しました。
問20	答え 法隆寺	法隆寺は奈良県生駒郡斑鳩町に位置し、7世紀初頭に聖徳太子が建立したと伝わります。日本で初めてユネスコの世界文化遺産に登録された歴史的建造物であり、釈迦三尊像などの飛鳥彫刻の名品も多く収められています。
問21	答え 法隆寺	法隆寺は、聖徳太子によって建立された日本最古級の寺院です。現存する金堂や五重塔などの建物は、世界で最も古い木造建築物群としてユネスコの世界文化遺産にも登録されています。当時の建築技術や仏教美術の粋を伝えており、飛鳥時代の高度な国際交流の様子を現代に伝えています。
問22	答え 左右対称	釈迦三尊像に見られる「左右対称」の形は、当時の大陸の様式を忠実に受け継いだ証拠です。中心の仏像の両側に脇侍を配し、均整のとれた安定感のある姿を作ることで、仏の尊厳や穏やかさを表現しました。
問23	答え 冠位十二階	603年に制定されました。役人に位を表す冠を与え、その色は徳・仁・礼・信・義・智の儒教的な道徳に基づく階層を示しました。これにより、有力豪族だけでなく、能力のある人物を政治に参加させる道が開かれました。